絆を育む学校づくり－家庭と地域と共に歩む学校の創造－

新城市立新城小学校

１　実践のねらい

⑴　地域の活性化をテーマとして異世代交流会議をもち、異世代の方々と協力しながらふるさとを盛り上げる活動を考える。そして、工夫を凝らしながらその活動を実行し、地域に貢献する活動を通して、ふるさとを愛する意識を高める。

⑵　保護者に学校の活動に参加してもらう機会を作り出すと共に、専門的な知識や特技をもつ地域の方や、伝統・文化に造詣が深い方などを外部講師として招き、子どもの成長に生かす。

２　実践の内容

⑴　地域と共に憩いの場づくりを目指す取組とその発信活動

①　地域の憩いの場にしたい

本校の校内には、直径２～３ｍ位の円が４つつながった「ぎょぎょランド」という名前の池がある。２０年前に完成した池で、大きな木々に囲まれ、夏には木陰で涼むことができる場所である。しかし、水の流れを作るなどの水をきれいに保つ装置がなく、もう何年もの間、池の水は濁り、魚もいない状態が続き、整備するのが困難な場所になっていた。

そこで、池の状態を改善し、児童や園児が生き物を観察して楽しんだり、地域の方が散歩の途中で立ち寄ったりするような場所にしようと６年生のボランティア２８名が立ち上がり、「ぎょぎょランドの再生プロジェクトチーム」を発足した。（以降「ＰＴ」と表記）

②　「ぎょぎょランド」の再生への取り組み

全校児童にアンケート調査をすると「水をきれいにしたい」「滝や噴水をつけたい」「魚がいる池にしたい」という希望が多数あった。そこで、水をきれいにするための清掃作業から取りかかり、環境が整ったところで魚を入れることにした。

清掃作業を始めてみると、泥水、大きな石、大量の砂利、落ち葉などの障害物だけでなく、天候にも大きく左右され、思うように作業を進めることが難しかったが、ＰＴのメンバーは工夫を凝らし、粘り強く作業を続けた。さらに、全校ボランティアやＰＴＡ・地域の方々の協力にも助けられ、次のように作業を進めた。

・全校ボランティアによる泥水を出す作業（６月）
・排水ポンプによる水抜き（７月）
・池の底の砂利を撤去する（７月～１０月）
・ＰＴＡによる草刈り（８月）
・池に魚を放す（７月・１１月）
・全校ボランティアによる落ち葉集め（１２月）

落ち葉を集める児童の様子

７月には２つの池の整備が終わり、夏には昨年よりも多くのトンボが池の周りを飛び交う姿が見られた。１１月には残りの２つの池に魚を放すことができ、ようやく「ぎょぎょランド」を魚がいる池に変えることができた。

③　地域の理解や協力に支えられて

ア　整備作業に対する支援

池の泥水がなかなか出せない様子を学校のホームページで見た地域の方から、排水ポンプを貸してくださるという申し出があった。これによって、効率よく作業を進めることができるようになった。また、休日に高圧洗浄機を使って池の壁をきれいにしてくださった方や周りの草刈りをしてくださった方もいて、ぎょぎょランドの再生活動を支えていただいた。

イ　地下水をくみ上げ、池に流すポンプの取り付けに対する支援

一度きれいにした水も、そのままにしておけばこれまでと同じように濁ってしまう。そこで、子どもたちは、地下水をくみ上げることができるように井戸を掘り、その水を池の中に流すポンプが取り付けられないだろうかと考えた。こうしたＰＴのメンバーの思いを、区長を始め、地域の活性化に取り組んでいる団体の方、市役所の方などに伝えると、「学校が中心となって、地域との結びつきを深めていくことは、ふるさとを盛り上げていく大切な方策である」と前向きに検討してくださり、来年度の新城地域自治区予算事業に関する建議書に池の水循環のために井戸を掘削整備する費用を予算化していただくことができた。

ウ　園児たちの訪問

１１月下旬、ＰＴのメンバーが、再生活動に対してお世話になった方々へのお礼の手紙と合わせて、学区にあるこども園や中学校に「再生したぎょぎょランドを機会があれば見に来てください」という案内の手紙を出すと、早速、２つのこども園の園児たちが来校し、魚を見たり、池の周りで遊んだりして楽しく過ごしてくれた。

④　異世代交流会議で思いを伝える

１２月、中部地区区長会長・入船区長・学校評議員・地域活性化団体会長・ＰＴＡ会長・自治振興事務所担当・市教委副課長の７名を学校にお招きして、異世代交流会議を行った。会議の中では、ＰＴのメンバーが、「ぎょぎょランドに対する夢」や「地域の方々と一緒にしたいこと」を発表し、地域の方々からは「今後の活動に対する励ましやご助言」をいただいた。貴重なご助言の中でも、池を良い状態で維持していくことの難しさや活動を次の学年に引き継いでいくことの大切さが、子どもたちの心に強く響いた。

異世代交流会議の様子

⑵　外部講師を活用した「ふるさと講座」の開催

①　地域の人材を掘り起こそう

専門的な知識や特技をもった地域の方を講師として体験学習を行うことで、子どもがふるさとを愛する気持ちを高めたいと考え、下に示す１１講座の「ふるさと講座」を実施した。

蝶と蛾	ランニング	俳句	木工	和菓子	樹木	火縄銃
人々の暮らし～今と昔～	フラワーアレンジメント	ササユリ	クリスマス			

②　体験学習を通して地域との交流を深める

講師の先生の知識や技能、そしてその温かな人柄に触れ、子どもたちは楽しく体験学習を行うことができ、地域の人々との絆を実感した。今年、初めて実施した「ふるさと講座」は、地元に住む方々と交流を深めるよい機会となった。

「木工」では、スライド付きの箱を作りました。箱を作る木には、くぎをさす穴があいており、とても分かりやすかったです。向きを間違えた時には、講師の先生が優しく直してくれました。箱が上手に完成したので、とてもよい体験ができました。（６年児童の感想）

３　実践の成果や課題

⑴　成果

「ぎょぎょランド再生活動」をきっかけとして、学校に地域との交流の場・憩いの場を作りたいという子どもの考えには、地域の多くの方の賛同を得ることができた。さらに、子どもの力の及ばない所を、地域の方々のお力添えにより推進することができ、学校と地域との絆が強まった。

⑵　課題

課題としては、「６年生の活動に共感した下学年の子どもたちが、活動を引き継げるよう支援していくこと」「整備活動を続けながら池の環境を整え、よい状態を維持していくこと」「活動の様子や学校が必要としていること等に関する地域への情報発信」の３点があると考えている。